災害関連投稿に対するリテラシー調査

事　務　局

令 和 ８ 年 11月

災害時のリテラシーに関する分析（調査手法）

- 災害発生時のインターネット上の偽・誤情報に対するリテラシーの変化を把握するため、2016~2026年の6つの地震についてYouTubeから抽出した1,800件のコメントを5類型に分類した上で、前期3地震と後期3地震を比較して類型ごとの割合の推移を調査。

【今回の調査の概要】

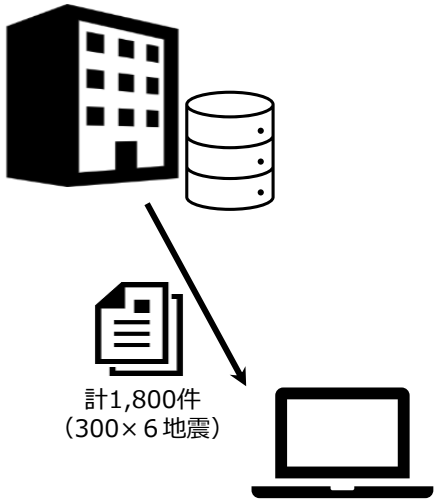
① 直近の3地震を基準に、地域構成と地震規模を踏まえて約10年前の地震も３つ選定（下表のとおり）

② それぞれの地震について、発生後７日間（168時間）を対象に300件ずつ計1,800件のコメントを検証データとして無作為抽出

③ 試験データを用いて探索的に指標を設定し、②で無作為抽出した検証データを大規模言語モデルを活用して以下の５類型に分類

※ 公開コメントを統計的に集計したものであり、個人を特定・評価するものではない。

	発生日	地震名	規模・震度
前期3地震	2016年4月14日 16日	熊本地震 平成28年	M7.3 震度7
	2018年9月6日	北海道胆振東部地震	M6.7 震度7
	2019年6月18日	山形県沖の地震	M6.7 震度6強
後期3地震	2025年12月8日	青森県東方沖の地震	M7.5 震度6強
	2026年6月25日	岩手県沖の地震	M7.2 震度6強
	2026年7月28日	熊本地震 令和8年	M7.1 震度7



A分類 情報への疑問、不確実性の認識、推論、誤情報の可能性への指摘を含むコメント
例：この動画は本物なのだろうか？

B分類 情報探索・情報共有に関する意向や行動を示すコメント
例：調べて確認します！

C分類 具体的な根拠に基づく信頼性評価、または具体的な訂正を含むコメント
例：先程気象庁から最大震度7と訂正が入りましたね

D分類 対象とする情報行動が確認されないコメント

U分類 本文の破損・解釈不能等により判定できないコメント

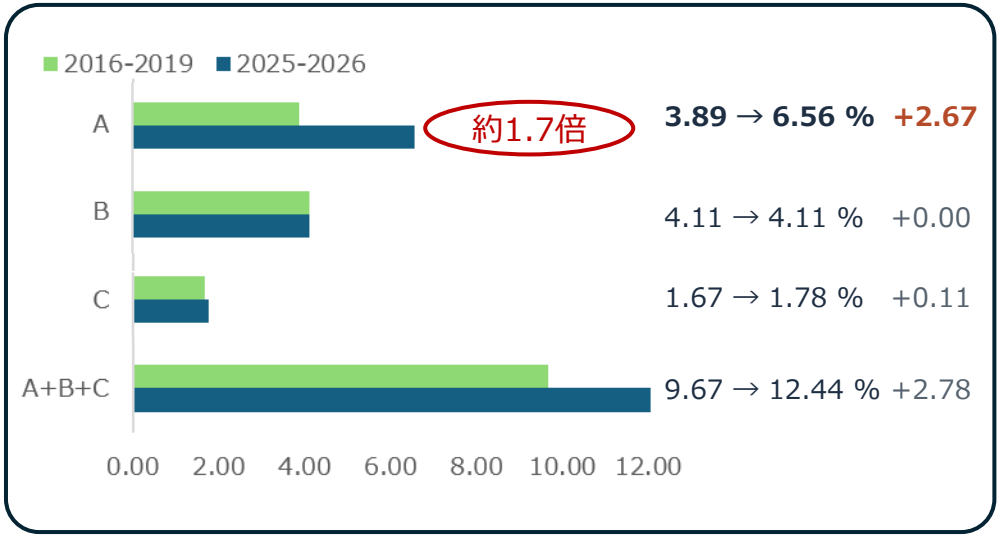
【主指標 R1～R6】
情報探索／真偽・信頼性／不確実性／根拠付き推論／共有判断／誤情報対応

【補助指標 L1～L7】
一次情報／訂正／科学的証拠／事実と仮説／未確認性／時点・条件／情報源

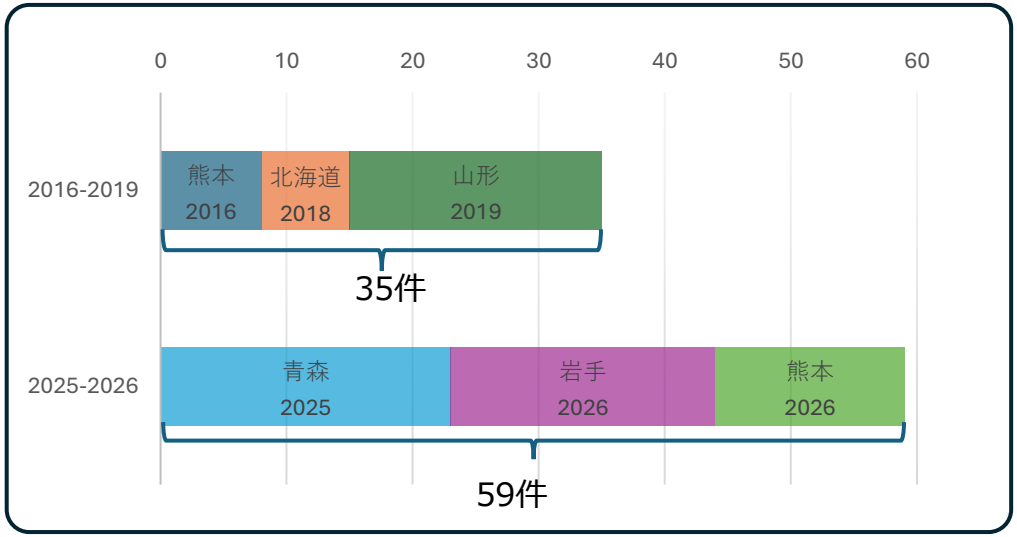
災害時のリテラシーに関する分析（調査結果）

- 前期3地震と後期3地震で分類結果を比較すると、「疑問・不確実性・推論」（A分類）が1.7倍となった。
- 「情報探索・共有」（B分類）や、「信頼性評価・訂正」（C分類）では統計的有意差が見られなかった。
- 本件調査の手法・対象範囲や判定精度等の制約により、結果の解釈・一般化には留意が必要であるものの、インターネット利用者における情報の不確実性等に関する認識の広がりが示唆されていると評価できる。

A・B・C分類の推移（前期３地震→後期３地震）



地震別のA分類の件数



比較項目	A分類 疑問・不確実性・推論	B分類 情報探索・共有	C分類 信頼性評価・訂正
件数推移（前→後）	35件 → 59件	37件 → 37件	15件 → 16件
割合推移（前→後）	3.89% → 6.56%（+2.67pt）	4.11% → 4.11%（±0.00pt）	1.67% → 1.78%（+0.11pt）

※ 公開コメントを統計的に集計したものであり、個人を特定・評価するものではない。